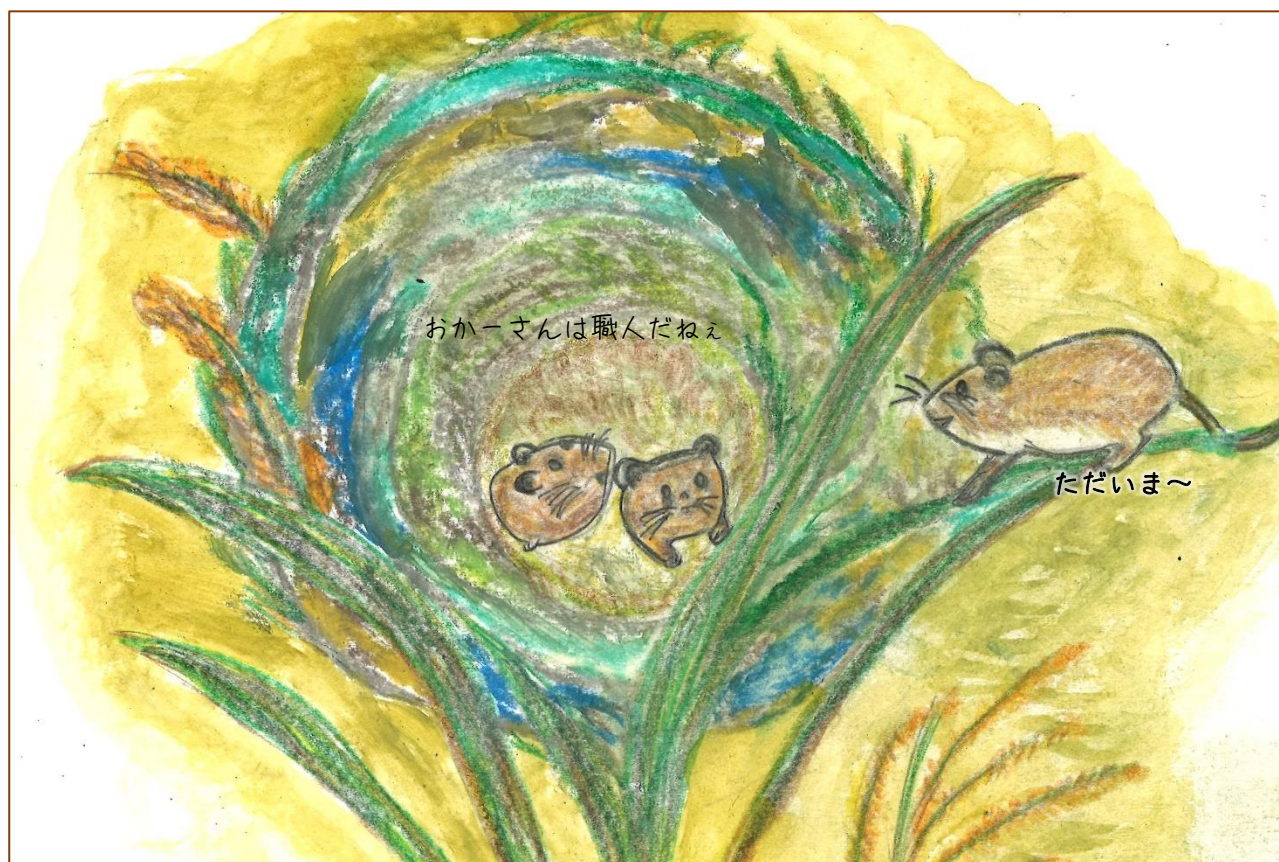


よしきい

2024年 冬号



草を編んで巣を作るカヤネズミ イラスト：会員 K.N

目次

公園の風景

- ・日本一小さいネズミ 1
- ・バードウォッチングに行こう 1
- ・木々のアーチを抜けると山口湾！ . . 1

展望棟から ⑤

. 2

みんなのひろば

- ・ウドンゲの花 2

活動紹介

- ・盛りだくさんの研修旅行 3
- ・秋だ、祭りだ、ふれあいまつり . . 3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 10509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

HP ashinokai.html.xdomain.jp

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）



公園の風景

= 日本一小さいネズミ =

赤茶色の背中に真っ白なお腹。頭から尾の付け根まで 6cm くらいしかない小さなカヤネズミ。茅や稲など、背丈のある草原や田んぼに生息し草の種や昆虫を食べていますが、公園のヨシ原にもたくさん棲んでいて、ヨシの葉を編んで丸い巣を作ります。冬の公園イベント「ヨシ原探検」では、毎回子供たちがその古い巣を目ざとく見つけてくれます。

尾を草や茎に巻き付けながら草の上を軽々とせわしなく移動します。自然の中の姿を見るのは難しいですが、ビジターセンターの観察ホールでは、ケージの中で暮らしているカヤネズミが見られます。とてもキュートな、日本一小さなカヤネズミに会いに来ませんか？



= バードウォッチングに行こう =



カンムリカイツブリ

11月10日、公園の月一回の行事「ぶち楽しいバードウォッチング」がありました。夏の暑い間はなかなか野鳥を見ることができませんでした。今月は、アオアシシギを見ているとソウシチョウの音がする！あっジョウビタキが鳴いている！ハイイロチュウヒが飛んでいる！と、忙しい 忙しい!! 参加者の皆さんもあっちを見たりこっちを見たり、耳を澄ましてみたり、嬉しい悲鳴でした。これからまだまだいろいろな野鳥が増えていきますよー。



この日観察できた野鳥は、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、キジバト、オオバンカイツブリ、カンムリカイツブリ、ダイゼン、アオアシシギ、セグロカモメ、カワウ、クロツラヘラサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ハイイロチュウヒ、トビ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、シロハラ、ジョウビタキ、ノビタキ、ハクセキレイ、オオジュリン、ノゴマ。以上、30種類にもなりました。

= 木々のアーチを抜けると山口湾！ =



公園の散策コースが増えました。クロツラケージの前の道を進むと、以前進入禁止のところより、もう少し先まで直進可能となりました。ロープが張ってある手前を左に曲がると、その先の坂道の両側から伸びた木々の枝がアーチをつくっています。アーチをくぐれば目の前は山口湾。公園と海を隔てる海岸道路に出るのです。対岸の秋穂二島の長浜半島が一望、左へ目を移せば、サギの佇む様子をイメージし造られたという周防大橋が間近です。海岸道路を歩いての公園一周は



長すぎると思われる方、ここを通って近道もできますよ！

展望棟から ⑤

展望棟を上がると北東方向手前に見えているのは秋穂二島の旭山と福西山。その後ろに、カンジュウローと呼ばれ親しまれている勘十郎岳(246m)、次に小さく尖った中岳(220m)、大海山(325m)が並んでいます。「亀尾山(かめのおやま)」という別名を持つ大海山は花崗岩でできた岩山で、いたるところに「まんじゅう山」「おむすび山」「モアイ山」など楽しい名前の付いている岩があるそうです。瀬戸内海と対岸の国東半島の山々を見晴らせる山頂は登山者の憩いの場となっています。



観察展望棟

東西南北、ぐると見渡せます



勘十郎岳、中岳、大海山は、前ページ掲載の
木々のアーチをくぐったところからよく見えます

みんなのひろば😊

ウドングの花

猛暑だった夏が過ぎ、ふれあいまつりも無事終わり庭木の剪定を始めたところ、松の葉に「ウドングの花」を見つけました。地上1メートル強のところですよ。最初は、ウスバカゲロウの卵かと思い、はて？ 幼虫は川の中では… と調べてみると、ウスバカゲロウの仲間の幼虫は水生のものもいるが、ほとんどが陸生だとのこと。

幼虫はアリジゴクかなと思いながら、会のLINEにUPしたら、会員のひとりからウィキペディアの情報を貰いました。それによると、ウドングはクサカゲロウの幼虫で、背面にかぎ状の毛を持ち、そこに植物片などのゴミを背負う行動を取る。柔らかな腹部と小さな頭部に細く鎌状に発達した大顎を持ち、アブラムシやハダニなどを捕食する。そして繭を作って蛹になると。ウィキを見ると幼虫は儚げな成虫の姿からは想像もできない姿をしています。

ちなみにアリジゴクはウスバカゲロウの幼虫です。

(K.D)



皆さまのご投稿をお待ちしています。ashinokai.kirara@gmail.com までお送りください。

活動紹介

= 盛りだくさんの研修旅行 =

暑いながらも秋の気配が感じられる 10 月 14 日、園長と会員 2 名の車に分乗し、周防大島(屋代島)に研修旅行に行って来ました。まずは「山本柑橘農園」で、アサギマダラの研究家であり、「南津海みかん」の生みの親である山本さんに、みかんの新しい品種開発の楽しさや苦労、アサギマダラの話など聞いた後、



日当たりの良いみかん畑でおいしいみかんをほお張りながらみかん狩り。その後、標高 619m の高山^{だてさん}に車で上り山道を歩いて、大小の島々が浮かぶ瀬戸内海の絶景を見晴らす展望台でお弁当を食べました。前方遠くには四国の佐多岬も見えました。

次に訪れた外入地区にある「とのにゅうアサギマダラ園」では、アサギマダラ数頭がフジバカマの上をひらひらと飛び回っていましたが、シャキッと元気なフジバカマにも皆、目がくぎ付けに。葦の会の今後の課題となりました。最後に周防大島と環境省が整備した瀬戸内海国立公園の「地家室園地」で二ホンアワサングの展示とビデオ映像を鑑賞。内容盛りだくさんの、中身の濃い、楽しい研修旅行となりました。会員達は早くも来春の旅行に思いを馳せています。



= 秋だ、祭いだ、ふれあいまつり♪ =

<俳句教室 最多選句>

オープニング!



べったんこべったんこ!



ついたお餅をまるめてお持ち帰り



輪投げは真剣勝負

10 月 27 日(日)、葦の会主催の「ふれあいまつり」を開催しました。ガイドウォークやタッチプール、昔遊びコーナーや鳥の絵合わせクイズなどもあり、大いに盛り上がりました。焼き芋、ぜんざい、豚汁もきれいになくなりました!(^^)!

・薄くもる湖畔や群るる蓼の花

・雨脚の強くなりたりこぼれ萩

貞代

清子

9 月

10 月



ぼうが持ってあげる



紙飛行機とばし



クロツラ餌とりゲームも



わたあめも大人気でした

<編集後記>

秋らしさを感じられる日々が貴重に感じる今秋が過ぎていきます。そして、冬の訪れが近いのか遠いのか、暖冬なのか寒冬なのか、異常気象に幅を利かされるのは勘弁してもらいたいものです。それでも、鳥たちの飛来は日照の変化によるもの、公園の冬鳥は例年通りかと……。 「よしきり」のお届けも同じくです。 (Tasha)